

広汎性発達障害児の治療教育に関する一考察（３）

都築繁幸・新美奈緒子・藤井安規・前田綾子・福井衡子
（愛知教育大学）

I. はじめに

私どもは、広汎性発達障害児に対する地域療育支援プログラムとして「わいわいクラブ」を組織して活動を展開している。

本稿では、200X年小学校3年生を対象に行った実践を報告する。

II. 活動の主旨

1年間の活動をととして「最後まで活動に取り組むことにより子どもたちが自信をつける」ことを目的とした。このグループの子どもたちは落ち着きがなく、友達と合わせることが苦手である。和太鼓は、周りを意識して自分も動くことが必要になり、みんなで協力して曲を完成させる喜びも味わえる。

そこで、和太鼓を通して体をたくさん動かし、友達とあわせることや順番を守ることを学んでほしいと考えた。3月に行われる卒業式で、1年間のまとめとして和太鼓をみんなの前で発表することにより自信をつけることを願った。

III. 子どもたちの実態

本活動に参加する前の子どもたちの様子（200X年4月以前の様子）は、以下のようである。

参加児は、小学3年生8名である。A児、B児、C児、D児は、前年度から継続して参加している。

A児	B児、C児と仲がよく、休憩時間に一緒に遊んでいる。スタッフの話を聞く場面では、なかなか席につくことのできないB児やC児に影響され、一緒に遊んでしまうことが多い。工作は得意で、作品を作るときは見本をまねしてそのまま作るのではなく、工夫をして作ることができる。
B児	H児と双子。A児、C児と仲がよい。自分の興味のある活動には率先して取り組むが、あまり興味がないときはほかのことをして遊んでいることが多い。D児に対して攻撃的で、C児とともにD児の悪口を言ったり、たたいたりする。自分に都合の悪いことがあるとスタッフに対しても攻撃的になる。
C児	自分が負けることを認めることができない。じゃんけんをして自分が負けると「もう1回やろう」と言い、自分が勝つまでじゃんけんを続けようとする。作った作品が他の子より劣っていると感じると、自分の作品を足で踏んで壊してしまう。一度失敗すると、次は一人でやりたがらない。D児に対して攻撃的。B児とともにD児をからかっている。
D児	歌が大好きでマイペース。B児、C児を警戒していて、B児、C児が近づいてくるとスタッフのうしろに隠れようとする。自分で作ったものに対する愛着が感じられず、自分で作ったおもちゃをゴミ箱捨てようとしたこともある。工作活動でおもちゃを作っても、そのおもちゃで遊ぶのは1回か2回で、長く遊んでいる姿をみたことがない。
E児	初参加ということもあって、最初はやや緊張気味。隠れて遊ぶのが大好きで、何度も教室から飛び出して隠れていた。スタッフが探しに行くまで隠れている。スタッフに見つけてもらえるとうれしそうにしていた。スタッフと関わりを持とうとして叩いてくることがたびたびあった。
F児	「お母さんはどこにいるの?」「お母さんのところに行きたい」ということが多かった。スタッフにずっとくっつき、話を聞くときはともだちと離れた場所に座っていた。常に友達と距離を保とうとしていた。ゲームを気にしているようであったが、はずかしがって「やらなくてもいい?」とスタッフに何度も聞いてきた。
G児	自分から友達に話しかけようとはしないが、スタッフとは話をしてくれた。少し緊張した様子で入学式が始まるのを待っていた。式の間は自分の席に座り、スタッフの話をしっかり聞くことができた。
H児	B児と双子。A児、B児、C児と仲がよい。C児、E児とゲームの話で盛り上がっていた。椅子の片付けなど、スタッフの手伝いを進んでできた。ゲームの説明を熱心に聞き、積極的に活動に参加していた。

このグループ全体の様子は、以下のようである。

- ① 元気のよい子とおとなしい子がいる。元気な子たちは休憩時間に友達同士で遊んでいるが、おとなしい子はスタッフとのかかわりが中心になっている。
- ② おとなしい子達は元気のいい子の勢いに押され、スタッフの陰に隠れていることが多い。
- ③ 順番を守れないことが多く、どうしてもゲームに勝ちたくてルールを破ってしまう。
- ④ 話を聞く場面でなかなか席に着くことができない。
- ⑤ 友達を常に意識していて、いいことも悪いこともすぐ友達のまねをする。
- ⑥ 毎回わいわいクラブでの活動を楽しみにしていて、教室に来ると一番に予定表を見に行く。

IV. 活動内容

(1) 年間計画

本グループでは、和太鼓を中心に活動を組み立てた。教室内を走り回り、落ち着きがない姿を予想していたので、活動の前半に動きのある和太鼓を取り入れた。工作活動など落ち着いて行う活動は後半に設定した。

このグループは、わいわいクラブ全体での活動のときも他のグループとのトラブルが多いので、10月にグループの中でお店屋さんごっこをしてスムーズに接客ができるように練習を取り入れた。1月には和太鼓発表の衣装を作り、発表への気持ちを高めていこうと考えた。

(2) 1日の活動例

活動の時間帯は、以下のようである。

10:00～10:10 朝の会（あいさつ、出欠、今日の予定、約束）

10:15～11:10 和太鼓

11:15～12:05 工作活動、ゲーム

12:10～12:20 帰りの会（今日の感想、連絡、あいさつ）

「朝のあいさつ」、「帰りのあいさつ」、「朝の会の司会」、「帰りの会の司会」、「今日の予定」、「約束」、「出欠」、「号令」の8つの係を作り、5月の活動のときに話し合ってそれぞれの分担を決めた。自信を持って係り活動を行って欲しいと考え、年間同じ係り続けるようにした。

当初、8人合同で活動を行っていたが、D児に対するB児、C児の攻撃がひどくなったため、7月からは後半の活動のみAグループ（A児、B児、C児）、Bグループ（D児、E児、F児、G児、H児）に分けて活動を行うことにした。

(3) 年間目標

A児：席に座り、スタッフや友達の話をしっかり聞くことができる。また、仲のよいB児、C児以外とも関わりながら活動を進めることができる。

B児：話を聞く場面と遊ぶ場面の区別をつけることができる。嫌なことがあっても手を出すのをがまんすることができる。

C児：順番を守ることができる。また、終了時間を意識し、時間内に作品を仕上げるができる。

D児：友達やスタッフとかかわりながら活動を進めることができる。また、作った作品と一緒に遊ぶことができる。

E児：活動時間中は教室にいることができる。また、班のみんなと関わりながら活動を進めることができる。

F児：安心してわいわいクラブの活動に参加することができる。スタッフや友達とかかわりながら活動を進めることができる。

G児:スタッフだけではなく友達とも関わる事ができる。困っている子を助けることができる。
H児:班の中心となってみんなをまとめることができる。仲のよいA児、B児、C児以外の子ともかかわりを持って欲しい。

(4) 月別活動内容

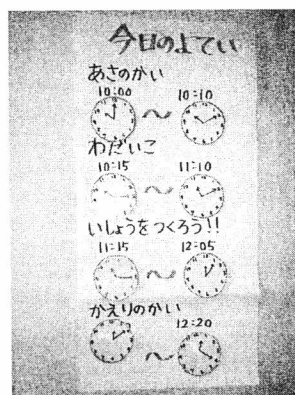
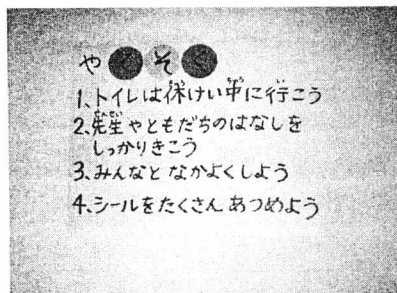
月別の活動内容は、以下のようである。

	前半(和太鼓の練習)	後半(ゲーム、工作活動など)
5月	和太鼓に親しもう	ポーリング大会をしよう
6月	和太鼓でリズムを打とう	空き缶釣りゲームをしよう
7月	遠足(電気の科学館)	
9月	曲にあわせて打とう	バザーで売るせっけんを作ろう
10月		接客の練習をしよう
11月	キャンプ	
12月	ツリーの飾り作り、クリスマス会	
1月	ポーズの練習をしよう	和太鼓発表のための衣装を作ろう
2月	フォーメーションの練習をしよう	紙トンボと紙ロケットを作ろう
3月	和太鼓の最後の練習、卒業式	

(5) 活動場所の配慮

黒板に落書きをする、工作の材料で遊ぶ、落ちていたゴミで遊ぶ、などの行動がよく見られる。そのために活動の前にチョークや黒板消しは手の届かないところに置いておく、教材は説明が終わるまで隠しておく、教室をしっかりと片付けておく、などに気をつけた。

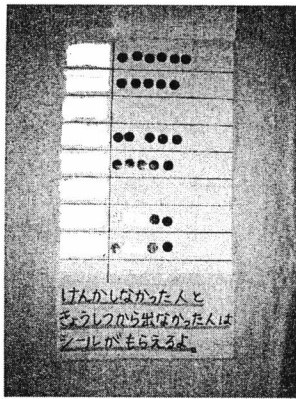
時間や日程を気にする子がいることから、今日の予定を書いた紙を黒板に貼り、一目で今日の予定がわかるようにした。また、活動中の約束も黒板にいつも貼ることにした。



(6) 活動中のルールづくり

1年を通して「シールの時間」を活動に取り入れた。けんかをしなかったとき、勝手に教室から出なかったときはシールをあげる。1回の活動で2, 3回シールの時間を設け、子どもたちにシールをあげる。シールをあげるときは必ず「しっかり先生の話が聞けたね」、「友達とけんかしたなかったね」とそれぞれのがんばりをほめるようにしている。

子どもたちには「シールを集めるといいことがあるよ」と約束し、3月の活動が終わってから子どもたちが一番好きなキャラクターの絵が描かれたプラバンのキーホルダーと表彰状をプレゼントした。誰が一番シールを多く集めることができるのかを競っているわけではないので、シールの枚数の差が目立たないように毎月違う用紙にシールを貼るようにした。



V. 実践事例：9月

(1) これまでの子どもの実態

5月は和太鼓の練習とボーリング大会を行った。初めて触れる和太鼓に興味を示し、「太鼓の達人になる！！」と張り切って和太鼓の練習に取り組んだ。和太鼓の練習では大きなトラブルが起ることもなく、スムーズに活動を進めることができた。

ボーリング大会では、自分の席でスタッフの話をしっかり聞くことができ、投げる順番も守ることができた。しかし、ゲームに勝ちたいあまり自分でルールをかえようとしたり、ルールをやぶってしまうこともあった。また、勝ち負けを決めるためにゲームをするわけではないことを子どもたちに伝えても、順位にこだわる様子が見られた。

6月は和太鼓の練習と空き缶釣りゲームを行った。和太鼓の練習では「もっと難しい曲はないの？もっと難しいのがやりたい」と言い、張り切って練習をすることができた。空き缶釣りゲームでは勝ちたい気持ちが強く、相手のじゃまをしたり、ルールを破ってしまうことがたびたびあった。

7月の遠足でははしゃぎ過ぎて班からひとりで離れていたり、順番が守れなくてけんかになることもたびたびあったが、ゲームシアターのゲームでH児が6位になったことを認めてあげることができた。また、今まであまり友達と関わることが少なかった子がまわりの友達に声をかけたり、一緒に遊んだりする姿が見られた。

(2) 個別の目標

- A児：4つのリズムを覚え、自信を持って和太鼓を打つことができる。友達と協力して活動を進めることができる。
- B児：約束を守り、動作を大きく和太鼓を打つことができる。まわりのペースにあわせて活動することができる。
- C児：約束を守り、和太鼓に集中し、リズム打ちができる。道具や順番を譲り合う気持ちを持ちながら時間内に作品を完成させることができる。
- D児：友達と一緒に楽しんで和太鼓を打つことができる。友達やスタッフと関わりながら活動することができる。
- E児：曲に合わせて動作を大きく和太鼓を打つことができる。友達と協力し、自分の意見を友達に伝えることができる。
- F児：曲に乗って和太鼓を力強く打つことができる。スタッフだけではなく友達とも関わりながら活動することができる。
- G児：友達と一緒に和太鼓を力強く打つことができる。自分の意見を友達に伝え、協力して活動を進めることができる。

H児：4つのリズムを確認しながら曲に合わせて和太鼓を打つことができる。友達の意見を聞きながら活動を進めることができる。

(3) 活動の流れ

9月(前半の活動：和太鼓)

時間	活動内容	支援上の留意点	備考
5 5	1, 活動の内容を知る。 ・模範演奏を聴く。 ・4つのリズムを聴く。	・2ヶ月、間があいたので、教師の模範演奏を聴き、思い出させる。 ・4つのリズムを聴き、確認させる。 ・太鼓に触らせないようにする。 ・曲に合わせて早く打ちたいという気持ちにさせる。 ・自分の順番の時だけ太鼓が打てる。 ・友達の演奏をしっかり聴く。	平太鼓 締太鼓 バチ カセットデッキ 音楽テープ
4 8	2, 約束を確認する。	・待っている時は決められた座り方で座る。 ・「やめ」と言われたらすぐに打つのを止める。 ・バチで太鼓以外は打たない。	
4 5	3, 和太鼓の基本打ちをする。 ・2人ペアになり、順番に和太鼓を打つ。	・ペアに1組バチを渡し、教師のまねをして太鼓を打たせる。 ・2の約束を確認させる。 ・飽きさせないためにリズムカルに交代させ、太鼓を打たせる。	
3 5	4, 4つのリズムを練習する。 ・「さんば」の歌詞を歌いながら1つずつリズム練習をする。	・待っている児童は待つ姿勢で座らせ、ペアの子をよく見て一緒に歌わせる。	
2 0	5, 見栄えの良い打ち方を練習する。	・打つ方の手と反対の手を高く挙げさせる。 ・腰を落として打たせる。 ・下を向かず正面を向くようにさせる。	
1 0	6, 曲に合わせて打つ。	・上手くできなくても、できたところをほめて充実感を持たせる。	
5	7, 片付けをする。	・バチを順番にかごに入れさせる。 ・ペアで協力して太鼓を運ばせる。	

9月(後半の活動：バザーで売るせっけんを作ろう)

時間	活動内容	支援上の留意点	備考
5 0	1, 活動の内容を知る	・11月のキャンプでお店屋さんごっこをすることを説明し、今回はお店屋さんごっこで売るせっけん作りをすることを伝える。 ・今回は自分のものではなく商品を作るので、作った作品を全部家に持ち帰らないことを確認する。(帰るときにせっけんが固まっていれば1, 2個家に持ち帰るようにし、固まっていないようであれば来月渡す) ・説明が終わるまでは道具を隠しておく。 ・説明の紙を使いながら、手順の説明をする。 ・一人一人で作るのではなく、みんなで協力して作ることを伝える。	説明の紙、 グリセリンソープ、 紙コップ、 電子レンジ、 わりばし、 軍手、 ビー玉、 おはじき、 せっけんの型、 画用紙、 はさみ、 水性ペン、 のり、 テープ
4 5	2, 作り方を知る 3, せっけん作り	・作り方 おはじきやビー玉などを型に入れる。 グリセリンソープを紙コップにいれ、電子レンジで15秒ぐらい加熱する。 ・完全に溶けたら型に入れ、冷やす。 ・道具が人数分ないので、順番に作業を行うようにする。 ・紙コップが熱くなることがあるので、やけどしないように注意する。 ・飾りを入れすぎると出来上がったときにせっけんが割れてしまうので、かぎりは1, 2個にする。 ・お店の看板を作るスペースを作る。 ・みんなで協力して片付けるようにする。	

20	4、片付ける	・飾りの見本を見せながら説明をする。見本とは違うものを作ってもいいことを伝える。	
15	5、お店の看板を作る	・一人一枚画用紙を渡し、看板につける飾り（絵）を作る。 ・後で全員の飾りを看板に貼るので、大きくなりすぎないように注意する。 ・なかなか作るのが決まらない子はスタッフが一緒に考えるようにする。 ・道具はみんなで仲良く使うように声をかける。 ・みんなで協力して片づけるようにする。	
5	6、片付ける		

（４）子どもの様子

A児：和太鼓の練習を外でやったので、バッタ採りに夢中になってしまった。外ではバッタに夢中でスタッフの指示が全く聞けなかった。しかし、後半のせっけん作りではシールをたくさん集めようとがんばっている姿をみる事ができた。あらかじめこちらで準備した型だけではなく、紙コップを利用して違う形のせっけんを作るなどの工夫をしていた。作ったせっけんをすべて持ち帰りたい様子であったが、持ち帰るせっけんをすぐに選ぶことができた。

B児：和太鼓の練習中はバッタ採りに夢中で、自分の番が回ってきてもなかなか和太鼓の練習をすることができなかった。後半のせっけん作りには興味津々で、次々にせっけんを作っていた。自分の作ったせっけんを友達やスタッフに見せて、嬉しそうにしていた。せっけん作りの前にC児と座席のことでもめたが、その後はけんかをしたのがうそのように仲良くしていた。

C児：スタッフが説明したせっけんの作り方ではなく、自分流のやり方で作っていた。スタッフが声をかけてもそのやりかたを変えることはなく、自分流のやりかたでしか作れなかった。自分の作ったせっけんを全部持ち帰ると言い張る。スタッフに1つしか持ち帰れないと言われると、「お前なんか殺してやる」と言う。最終的には持ち帰る1つを決めることができた。

D児：友達に違う名前をつけて遊んでいた。まわりの子はそれほど気にしていないが、C児だけは自分が違う名前をつけられていることに敏感に反応する。違う名前をつけられて腹を立てたC児に叩かれることがたびたびあった。わいわいクラブをととても楽しみにしていたので、常にテンションが高く、ずっと歌を歌っていた。E児が「うるさい」と何度も言っても、歌うことをやめなかった。

E児：和太鼓の練習ではバッタ採りに夢中で、虫が嫌いなスタッフにバッタを見せて遊んでいた。家に持ち帰るせっけんを選ぶときに、一番形が変なせっけんを選んだ。スタッフが「一番気に入ったせっけんを選んでいいんだよ」と声をかけると、「これが売れ残ると困るから」と答えた。商品を作っていることを意識していた。電子レンジを使うときやお店の看板を作るときは順番を守り、友達となかよく作業を進めることができた。看板作りにも積極的に参加し、「ふしぎなせっけんや」というお店の名前もE児が考えた。自分が考えた名前が採用されて嬉しそうにしていた。

F児：わいわいクラブに今年度から参加していることもあって、これまでは常に緊張して活動に取り組んでいた。しかし、だんだんわいわいクラブの活動に慣れてきたようで、スタッフに夏休みの思い出を話してくれた。せっけん作りが始まる前に1人で作り方の紙を読み、「早くやろうよ」と声をかけてきた。また、帰りの会で自分からE児のいいところ（嫌なことがあっても友達をたたかなかった）を発表できた。（友達のいいところを発表する時間を設けているわけではなく、自分から進んで発表した）

G児：常にスタッフのそばから離れることはなく、スタッフと遊んでいることが多い。せっけん作りの活動が始まる前に、自分の机を教室の隅に持っていったり机の下に隠れたりスタッフにかまってもらいたい様子。せっけん作りに興味を示し、おはじきが重ならないようにしたりせっけんの量に気をつけるなど、丁寧に作業を進めることができた。看板作りではポケモンの絵を上手に描き、友達に「すごい」とほめられて嬉しそうにしていた。

H児：和太鼓の練習のときはA児、B児、C児となかよくバツタを採って遊んでいた。せっけん作りは仲のよいA児、B児、C児と離れて活動することになったので、自分だけA児たちと離れたことが納得できない様子であった。D児とペアになってせっけんを作ったが、D児を助けながら作業を進めることができた。

VI. 実践事例：11月

活動内容は、フォークダンス、バーベキュー、バザーである。

(1) 子どもの様子

A児：家でも包丁を使うことがあるようで、「猫の手だよ」と友達に教えていた。交代で包丁を使ったが、H児と仲良く野菜を切ることができた。野菜の大きさがそろうように気をつけながら切ることができた。バザーでは「いらっしゃいませ」と大きな声で言い、張り切って商品売ることができた。はしゃぎすぎでスタッフの指示が通りにくく、集合するのが一番最後ということがたびたびあった。

B児：バザーを一番楽しみにしていて、朝から何を買うのか考えていた。全体で話を聞くときに、前に飛び出し、スタッフがもっていたB紙を叩き、進行のじゃまをしてしまった。自分の場所にもどってから「しまった」と言い、頭を抱えていた。タマネギの皮をむきにくそうにしていたが、最後までがんばって皮をむくことができた。野菜を切り終わってやるものがなくなると、バーベキューのコンロに落ち葉や木の枝を投げ入れて遊んでいた。どんどんエスカレートしていき、コンロを倒しそうになった。危険に対する意識が低い。

C児：はじめはB児と仲良く野菜を切っていたが、そのうちピーラーに夢中になり、ひたすらピーラーでナスの皮をむき続けていた。昨年度わいわいクラブに参加していたスタッフに焼きそばを分けてあげるなどの優しい姿をみることができた。中学生のお兄さんが大好きで、何度も「ものまねをして」と頼んでいた。仲のよい友達と遊ぶことに夢中で、集合するのが遅れるということがたびたびあった。

D児：スタッフが「包丁やりたい？」と聞くと、「やりたーい」と言っていた。いつもはスタッフの声かけがないと1つだけやって終わりということがよくあるが、野菜を切ることは興味があったようで、自分から積極的に取り組むことができた。フォークダンスのときにA児、B児、C児と手をつなぐのを嫌がったが、スタッフとは手をつなごうとしていた。バザーのときは自分のいる場所から一番近い店に行き買い物をしていた。

E児：野菜を種類切り終わるたびに包丁とまな板を洗剤で洗っていた。バーベキューのときに少しやけどをしてしまった。やけどが気になり、バザーのときや帰りの会の途中で何度も水道場に走っていき手を冷やしていた。フォークダンスでやったマイムマイムが気に入ったようで、1日中何度もマイムマイムを歌っていた。バーベキューのときに一人離れてところで食べていたり、すぐ池を見に行ったり、友達と一緒に行動することが難しかった。

F児：活動中の約束をしっかり守ることができた。友達が約束をやぶって一人でトイレに行こうとしたときや、勝手に遠くに遊びに行ってしまったときはスタッフを呼びにきて約束をやぶった人があることを報告した。家できゅうりを使って包丁を使う練習をしてきたので「きゅうりが切りたい」と何度も言っていた。きゅうりがないことを伝えると残念そうにしていた。バザーのときは「いらっしゃいませ」と大きな声で接客ができた。150円のものを買うときに100円玉と50円玉を出して買うことができた。しかし、200円を出すと50円のおつりがもらえることや、150円だったときはおつりがもらえないことなど、おつりの概念が理解できていないようであった。

G児：自分から友達に話しかけることはないが、スタッフに対しては話しかけてきたり、体によじ登ってきいたりする。お兄ちゃんが近くに来るとすぐにお兄ちゃんのところに行き、嬉しそうに話していた。D児と仲良く包丁を使い、ナスやさつまいもを班で一番薄く切ることができた。

自分が食物アレルギーがあることを自覚し、他の友達がいろいろなものを食べていてもがまんすることができた。

H児：スタッフにボールやまな板を洗ってくるように頼まれると、責任を持って最後まで仕事をこなすことができた。A児とペアになって野菜を切ったが、不公平にならないように野菜を半分に分けてから切りはじめるなど、2人で話し合いながら作業を進めていた。バザーでは班の中心となり、友達に指示を出しながら商品を売ることができた。遊ぶことに夢中でなかなか集合できなかったが、一度集合するとスタッフの話をしっかり聞くことができた。

VII. 実践事例：3月 卒業式

活動内容は、和太鼓の練習（1時間目）、卒業式（2，3時間目）である。

（1）子どもの様子

A児：1月に発表のために作った衣装を着るのをとても楽しみにしていた。1時間目の練習では、ふざけることはなく、一生懸命練習に取り組んでいた。卒業式のときは、初めのうちはおとなしくスタッフの話を聞いていたが、そのうち飽きてきて卒業式のプログラムで剣を作って遊んでいた。ボラロイドカメラのフィルムが入っていたケースを欲しがり（すでに2つもらっていた）、E児とけんかになるが、お母さんやスタッフに説得されてE児に譲ることができた。

B児：仲のよいC児が休みだということを知ると、とても残念そうにしていた。1時間目の和太鼓の練習では発表前の最後の練習にもかかわらず、練習中にスタッフに何度も抱きつき遊んでいた。しかし、卒業式で発表するときは堂々と演奏することができた。昨年度の卒業式では、前に飛び出して進行のじゃまをすることがあったが、今年は自分の席から離れることはなかった。途中で飽きてしまい、プログラムに絵を描いて遊んでいた。

C児：欠席

D児：いつもと活動場所が違ったので、部屋の中を歩き回り落ち着きがなく、指示が通りにくかった。和太鼓の練習をしているときに、思い出のアルバムの歌詞を見つけ、ひとりで歌っていた。和太鼓の練習では、初めのうち自分で勝手にリズムをつくり遊んでいたが、スタッフが隣で見本をみせるとみんなと合わせて演奏することができた。

E児：1時間目の練習で発表の最後に号令をかける係に任命されると、張り切って練習していた。本番でも姿勢に気をつけ堂々と演奏することができた。1年間で6回しか和太鼓の練習ができなかったが、リズムをすべて覚えていてスタッフの見本を見なくても演奏できた。ときどき隣の友達と話してしまっただが、卒業式の間は自分の席に座っていることができた。昼食後は友達と仲良くボラロイドカメラで写真を撮っていた。

F児：1時間目の練習でG児とペアになって和太鼓を演奏したいと言った。G児と一緒に演奏することが決まるとうれしそうにしていた。「思い出のアルバム（わいわいバージョン）」の歌詞を見て、わいわいでの思い出を振り返っていた。卒業式では集中できずにE児と話してしまうことがたびたびあった。1年間シールを集めたご褒美に表彰状を贈ると、とてもうれしそうにしていた。

G児：今までは自分からペアの相手を決めることはなかったが、今回は自分からF児とペアになることを決めることができた。F児と仲良く和太鼓の演奏をしている姿が印象的だった。和太鼓の練習後の椅子の片付けなど、自ら進んでスタッフの手伝いをしてくれた。卒業式の間は自分の席に座り、きちんと話を聞くことができた。

H児：今月は人数が奇数だったので和太鼓を1人で演奏する子が出た。1人でやりたいと言う子が多く、H児も1人でやれたがった。バランスなどを考えてスタッフが1人でやる子を決め、H児はD児とペアにした。これに納得がいかず、1時間目の練習中は元気がなかった。発表のときもこのことが影響して、元気のない演奏になってしまった。昼食後はA児とB児とともに「心靈写真を撮る！！」と盛り上がっていた。

VII. 子どもたちの行動の変化

(1) グループ全体の行動変化

一番大きな変化は、話を聞くことができるようになってきたことである。以前は、「活動を始めるよ」と言っても教室内を走り回り、なかなか席に着くことができなかった。しかし、今では予定通りに活動を進めることができるようになった。

勝ち負けに関係ない場面では、順番を待つことや相手に譲ることができるようになってきている。また、いいことも悪いことも友達のまねをすることが多かったが、活動中に友達が遊んでいるのを見ても自分は遊ぶのを我慢することができたり、友達がその場にふさわしくない行動をとっていることに気づくことができるようになった。

(2) 個々人の行動の変化

A児：大学の教室内での活動では「いすに座るよ」と声をかけるとすぐに席につけるようになってきた。スタッフが話をしている最中にB児やC児が席を離れ遊び始めても、その誘惑に負けず話を最後まで聞けるようになってきた。しかし、電気の科学館に遠足に行ったときやキャンプのときは遊ぶことに夢中で集合するのが一番最後になってしまった。楽しくてテンションが高い状態だとまだ指示が通りにくいことがある。E児とはすぐに打ち解け、ゲームの話をよくしている。C児とE児の取り合いになることもあった。H児とも休憩時間にじゃんけんをして遊んだり、ゲームの話をしたりしている。A児はシールの時間を一番楽しみにしていて、「席についている子からシールの時間にしようかな」と言うと、急いで席に着く。スタッフがシールの時間を作り忘れると、家に帰ってからシールがもらえなかったことを気にしている。C児がスタッフや友達をたたくを見ると、以前なら一緒になってたたいてしまったが、今は小さな声で「痛そう」と言い、C児の行動はいけないうちに気づくようになってきた。工作活動は得意であるので、毎回様々な工夫をして作品を仕上げている。A児の作品を周りの子が見て、いいところをまねしている。

B児：5月のボーリング大会では、勝負に負けるとボーリングのピンを足で蹴ってしまった。6月の空き缶釣りゲームでは、釣る順番を決めるじゃんけんで負けてしまい、ゲームのカードを破って床に捨ててしまった。しかし、しばらくすると自分からカードを拾い、セロテープで元に戻していた。6月は新しく入ったスタッフの気をひこうとする行動が多く、机の上を歩き回っていた。7月の遠足では自分勝手な行動をするC児につられることはなく、きちんと待っていることができた。朝の会や帰りの会など、興味のないときは離席が目立つ。興味のある工作活動の説明を聞くときはしっかりと座っていることができる。12月のツリーの飾り作りでは火星人ごっこをしていたC児と一緒にやろうと誘われ、一緒に遊び始めてしまうが、スタッフが「まだ完成していないけどいいの？」と声をかけるとすぐに工作活動に戻ることができた。C児に自分の作品を叩かれ、けんかになるが、スタッフが止めるとすぐに落ち着きを戻す。2月もC児に「遊ぼう」と誘われるが、「今は作ってるんだから」と断ることができた。

C児：友達とトラブルになることが多い。スタッフに対してもすぐ「お前なんか殺してやる」と言う。和太鼓の練習では順番を守って取り組みたが、勝ち負けが関係してくる場面ではなかなか待つことができなかった。11月までは活動に参加できていたが、12月からは活動に参加するのが難しくなる。12月から行動面で大きな変化があり、12月のわいわいはお母さんに引っ張られるようにして教室に来た。「わいわいは来たくない。帰りたい」と言い、近づいたスタッフを何度も水筒でたたく。ツリーの飾り作りがはじまっても、見本を床に投げて壊してしまう。「戦車が作りたい」としきりに言い、緑色に塗ってあったマカロニを青色に変えようと、油性ペンで塗りなおす。青にならないとわかると、机の上を歩き回り、スタッフを地球人に見立てて「火星人ごっこ」を始めた。クリスマス会ではお母さんの足にしがみつき、甘えていた。1月は「画用紙が欲しい」と言い、スタッフと2人で画用紙を買いに行った。2人きりになるとそれまでスタ

ップに攻撃していたのが嘘のように「手をつなごう」と言う。画用紙を買ってくるが、スタッフに「画用紙は衣装を作ってからにしよう」と説得され、なんとか衣装を作ることができた。2月は紙トンボ作りには参加しないが、ロケット作りには参加し、自分の作ったロケットのよさを教えてくれた。ドッジボールがやりたいと言い、スタッフが休憩時間にならやっていいことを伝えると、自分でボールをつくっていた。休憩時間を確認してからドッジボールをはじめたが、休憩時間が終わってもC児だけはやめることができず、スタッフをたたき続ける。スタッフがC児を無理やり廊下に出そうとすると、「やばい」という顔をする。結局、スタッフでは手におえず、お母さんに来てもらう。

D児：4月、5月は教室に来ると一番に「〇〇君（いつもD児にちょっかいを出すB児、C児）のことたたきたい」とスタッフに言っていたが、2班に分けてからはそのような発言をすることが少なくなった。6月にはG児の名前を知りたがり、スタッフに促されて自分からG児に名前を聞きに行くことができた。7月の遠足ではG児の姿が見えなくなると「〇〇君がいないよ」とスタッフに報告し、自分でG児を探しに行くこともあった。10月もG児が机の下に隠れていたときに「〇〇君がいない」と教室の外に探しに行こうとした。12月は友達がうつむいたり、ごそごそしていたりすると「どうしたの？」と声をかける姿がみられた。クリスマス会のゲームではF児と同じグループになっていることが多かった。友達の名前で遊ぶことがよくあるが、2月はC児の名前を使って遊ぶことが多く、怒ったC児に叩かれることがあった。12月の工作活動では、あっという間に作品を作ってしまう暇そうにしていたが、1月の衣装作りでは、「ステンシルの型を全種類使う」と言い、時間をかけて自分の作品を作ることができた。2月は工作を始める前に見本を使って紙トンボを飛ばす練習をしたが、すぐ練習をするのをやめてしまう。工作活動が始まると、自分の好きなキャラクターの絵を紙トンボに描き、数種類の紙トンボを作ることができた。

E児：4月の入学式では、何度も教室から飛び出してしまう、教室の外に隠れていることがあった。一度教室の外に出ると、スタッフが探しに行くまで隠れていて、見つけれらるとうれしそうにしていた。シールの時間を始めた5月からは教室を出て行くことはほとんどなかったが、2月は落ちつかず一度だけ教室から出て行ってしまった。しかし、教室のすぐ近くに隠れていて、スタッフが探しに来ないことを知ると自分から教室に戻ってきた。係の仕事（朝の会の司会係）もしっかりでき、いつも朝の会が始まる前から前に来て準備をしている。初めのうちはスタッフに頼りながら司会をしていたが、すぐに自信を持って1人でできるようになった。なかなか席につけない友達に「早く座ってよ」と注意ができる。A児、B児、C児、H児とすぐに仲良くなり、ゲームの話をよくしている。クリスマス会のときもA児、B児、C児、H児と肩を組み、5人で仲良くゲームに参加していた。

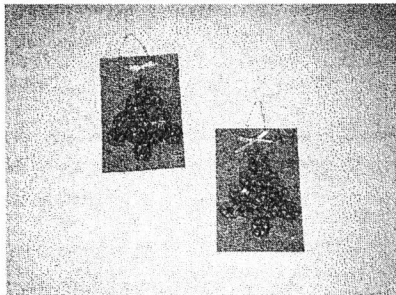
F児：4月、5月、7月はお母さんと離れるのを嫌がり、「いつ帰れるの？」と帰りの時間を何度も気にしていた。9月はスタッフを見つけると大きな声で「おはようございます」とあいさつができた。9月からは「お母さんはどこにいるの？」等の質問をすることはなくなった。スタッフには夏休みにコクワガタを採りに行った思い出などを話してくれる。活動中の約束をとてん気にしていて、友達が約束をやぶるとスタッフに報告する。5月の活動で約束をやぶった友達に直接注意をし、友達にたたかれるという経験をしてからは、約束をやぶったことをスタッフに報告するようになった。キャンプのお店屋さんごっこでは「いらっしゃいませ」と大きな声で言い、自らお客さんと関わろうとするが、何をしたらいいのかわからずH児に教えてもらっていた。2グループに分かれての活動では、E児と一緒に大きな声で作り方の紙を読んだり、G児と関わったりする場面が多く見られる。しかし、8人合同のときはおとなしくしていることが多い。3月の和太鼓の練習のときに、自分からG児とペアになって和太鼓を演奏することを望んだ。G児とペアになることが決まるとうれしそうにしていた。

G児：活動に対する関心は高く、いつも活動が始まる前に作り方の紙を探して読んでいる。ス

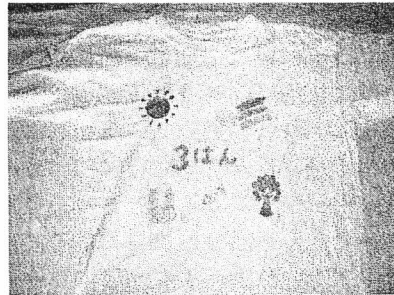
スタッフの背中によじ登ったり、腕にぶら下がったり、くっついてくることが多い。スタッフにかまってもらいたくて、机の下に隠れたりわざと机を離したりすることがある。スタッフとE児が戦いごっこをして遊んでいる中に自分からはいつか来たことがあるが、子どもだけで遊んでいる輪の中にはいつかいくことはない。ゲームが好きで、キャンプのときにポケモンキャラクターが描かれたレジャーシートを持ってきた。B児とC児がそのレジャーシートを見て知っているポケモンについて話していたが、G児はその場から立ち去ってしまった。元気のよいB児やC児のことを恐れていて、常にB児とC児と距離を保とうとしている。和太鼓の練習ではD児とペアになることが多かった。二人で交代しながら和太鼓を打つことをD児が理解できないでいると、必死になってD児の背中を押して交代することを教えようとしていた。

H児：2グループに分かれて活動をしているときは、Bグループのリーダー的存在でクリスマス会のプレゼント交換では、くじをひく順番を自分は最後までいいとみんなに譲り、みんなが順番で決めるのを仕切っていた。普段の活動のときもスタッフが口を挟まなくても、H児がみんなをうまくまとめ順番を決めることができる。スタッフのお手伝いも進んででき、周りをよく見て行動できている。8人での活動のときはB児のわがままな行動で兄弟げんかになることが多いが、結局いつもH児ががまんする結果になっている。はじめは1人だけBグループに入ったことに納得がいかず、9月のBグループでの活動は少し緊張した様子で、1人で黙々と作業をこなしていた。10月のBグループでの活動は少し慣れた様子で、お店屋さんごっこの順番を決めるとき「じゃんけんで決めよう」とみんなをまとめる姿をみることができた。12月のクリスマス会ではE児とプレゼントについて話す姿を見ることができた。

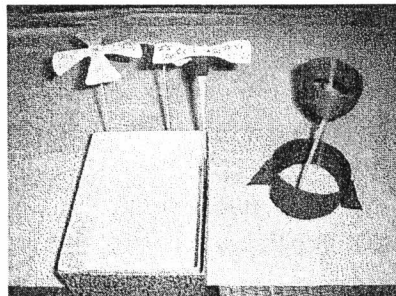
12月：ツリーの飾り



1月：発表の衣装作り



2月：紙トンボと紙ロケット作り



IX. おわりに

本活動は、月一回、午前中の活動である。当初、1グループで開始したが、途中で2グループに分けて活動を行うことも試みた。年度途中の活動形態の変更等は、今後とも検討していきたい。

謝辞：本活動を行っていくにあたり石川道子先生の御指導、御助言を頂いております。ここに記して感謝を申し上げます。また、本報告の掲載を快く了解して下さった会員の皆様にも厚く、御礼申し上げます。